

定時総会を開催

今年度事業計画など承認

埼玉県生産性本部（会長＝山田吉隆・川口化学工業代表取締役）は5月24日、平成30年度の定時総会をさいたま市内で開催した（写真）。



定時総会では、平成29年度の事業報告を行うとともに、平成30年度の事業計画・予算などを審議し、承認された。

開会あいさつで、山田会長は「生産性運動の取り組みにおいて、労・使・学識者が同じ時に、同じ場所で様々な問題について討議し、意見を言い合いながら結論を導き出し、活動展開を図っていくことが大切になる。今回の総会が単に収支決算の報告などにとどまらず、組織としてどのように考え、行動を取るのか、そのきっかけとなることを期待したい」と述べた。

この後、佐藤卓史・埼玉県産業労働部雇用労働課長と佐藤道明・連合埼玉事務局長が、それぞれ来賓あいさつを行った。

平成30年度の実績報告では、これまでの事業計画をベースに公開講座、受託教育、労使関係プログラムなどの各種事業を展開する。公開講座では、「リーダーシップ」など基本的な能力向上を図る階層別研修を充実させるとともに、働き方改革やイノベーション・技術革新など生産性向上に取り

進む「インポート・エクスポート」を11月20日に埼玉会館で開催する。

定時総会終了後、特別講演会が行われ、「感情労働マネジメント」対人サービス従業者への組織的支援」をテーマに田村尚子・西武文理大学サービス経営学部教授が講演した。

田村氏は、感情労働が注目されるようになってきた背景として、経済のサービス化が進む「感情労働」を要する対人サービスの現場が増加してきたこと、顧客がより一層のサービスを求める傾向が強く、顧客意識が大きく変化してきたことなどを挙げた。

組む労使の情報提供や課題解決に資するフォーラムの充実や新規セミナーを開催する。

また、日本生産性本部や東京圏の県生産性本部などとの事業連携を推進し、教育研修やコンサルティング等を充実させる。

労使関係プログラムでは、労使時局研究会において、「第3回働き方改革フォーラム」（「女性活躍推進フォーラム」と統合）を9月20日にさいたま市の埼玉会館で開催する。

感情労働の特徴については、肉体労働、頭脳労働に次ぐ「第3の労働」で、不可視性が強く精神的に消耗・疲弊しても周囲に気づかれにくく、また評価もされにくいことなどを指摘した。

感情労働への理解が重要で、感情労働従事者を後方から見守り、強いリーダーシップを発揮することが、感情労働への組織的な対応のポイントになることを強調した。

また、感情労働への対応のあり方として、もはや個人の対応に委ねるようなやり方は限界に来ており、組織的な対応が不可欠であることを指摘した。

とりわけ経営トップの感情労働への理解が重要で、感情労働従事者を後方から見守り、強いリーダーシップを発揮することが、感情労働への組織的な対応のポイントになることを強調した。